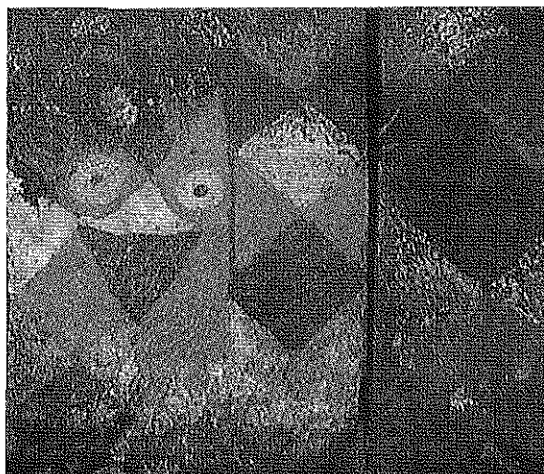




NO. 8 1994. 3

(株)九州地域計画研究所



チブサン古墳の大胆な絵柄（熊本県山鹿市）：鮮やかな赤を基調とした柄を見ていると、そのままプリントのワンピースを来た女性が抜け出てくるような感じがする。豊かな時代を感じさせる装飾古墳である。ぜひ実物を見に行っていたきたい（本文5P参照）。

も く じ

〈NETWORK・ネットワーク〉

2. 高齢者福祉からみたこれからのサービス産業を考える
5. やぶにらみ九州論4 ハナウタまじりで革命を!! 九州で気がついた革命の本質

〈見・聞・食〉

8. 本当のにせもの (株)京都科学開発センター
9. テーマパークらしくないテーマパーク 大津市・叶匠寿庵
10. 多様な種類が揃っている高齢者福祉施設
12. 親孝行の正助さんの里であなたも土を耕してみませんか
13. 県・市共同の一体的な団地づくり 崎岡団地視察報告
14. ミカン減反からの出発 佐賀県七山村農産物直売所
16. 食場日誌

〈近 況〉

16. ええかげん物語 断食は自分の身体と心の交流体験

〈本・BOOKS〉

18. 「非まじめのすすめ」 森 政弘 著
「想いは宇宙のかなたから」 LaSA事務局 編

高齢者福祉からみたこれからのサービス産業を考える

去る1月末に名古屋の東側に隣接する長久手町に位置する特別養護老人ホーム「愛知たいようの杜」の視察をする機会があり、改めて高齢者福祉サービスはじめ、今後のサービス産業全般について考えさせられた。

そこで、「愛知たいようの杜」での運営の方法や運営責任者である吉田さんの話を中心として高齢者福祉からみたサービス産業という視点で論じてみたい。

そこで、先ず「愛知たいようの杜」がどのような施設であったのかを簡単にご紹介する。

■管理の側でなく、入所者の側に立った柔軟な対応が感じられる施設

当施設は木々が所狭しと立っている丘陵部に建てられており、先ず当地を訪れると昨年4月にオープンした木造の介護福祉士専門学校が木立ちの中にひっそりと佇み、設立者の環境を大切にしている心が伝わってくる。さらに凸凹道を奥にいくと幼稚園、突き当たりに特別養護老人ホーム（以下「特老」という。）である「愛知たいようの杜」が見えてくる。

この施設群一帯を「ゴジカラ村」といっており、一般に5時まではイヤイヤ働く時間、5時以降を楽しむ自分の時間とされているが、それなら1日中5時以降のような気分のように仕事、勉強してもらいたいという意味が込められている。

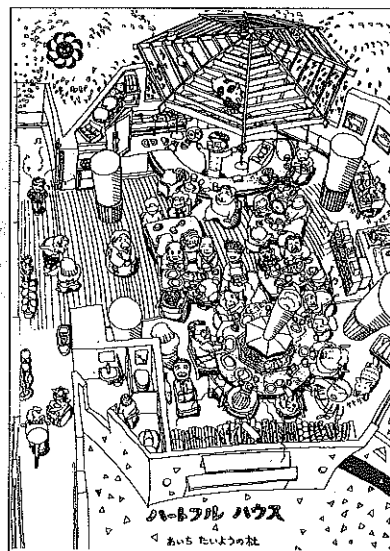
この考え方は特老の施設づくりや運営の仕方などにも表れており、特老という固定観念があった私は極めて強い感動を覚えた。

先ず第一印象として働いている人、入所している

高齢者とも明るく、常に声を掛け合っている様子が伺える。

施設内部は床、壁とも木材を使用し、コーナーにはどこかでもらってきたような不統一な椅子（高さが違い結果的には多様な体型に適合する。）が置かれ、便所には施設関係者が思い々にデザインしたタイルを貼り、玄関口の水屋の上にはキープボトルが置かれている。さらに事務所には犬がゴロリと寝ており、施設の外では鶏が鳴いている。また、施設内でお世話する寮母さんや看護婦さんなどは私服であり、その動きや雰囲気などから施設関係者であることを判断しなくてはならない。

今までの施設が管理収用型のタイプであるとした



当施設に居候の人が描いた食堂のイラスト

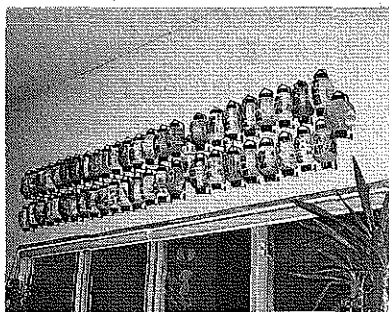
ら、当施設は正に入所している人、お世話している人にとって生活の場であり、生活の延長といった考え方を大切にしているように感じた。

当施設は、マニュアル化した管理や、管理しやすいようにした施設でないことから、柔軟な人の対応でそれをカバーしているかと思う。

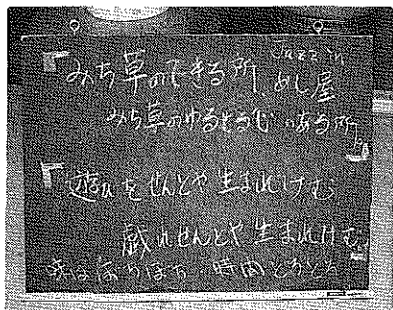
■豊田商事は高齢者サービス業の最先端であった

今から10年前ごろ悪徳商法の走りであった豊田商事は、ひとり暮らしのお年寄りなどをターゲットとした金券などを売り付けて多額の利益を得ていた訳であるが、実態のない商品価値であったために契約者に多額の損害を与えて、社会問題化したのは記憶に新しいところである。

この豊田商事が悪徳商法であったことは事実であったとしても、ひとり暮らしの高齢者に対して一日



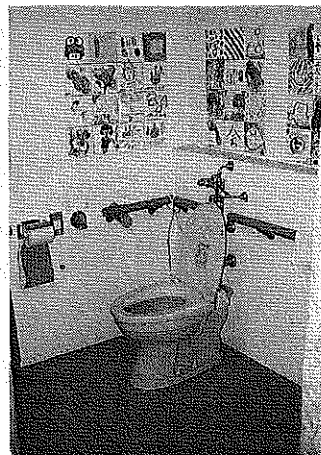
玄関口に飾ってある全国各地から集めた提灯



施設内の食堂「JAZZ IN」の入口に置かれている評語



500円の寄付により思い思いの絵を描いたタイルがはられている

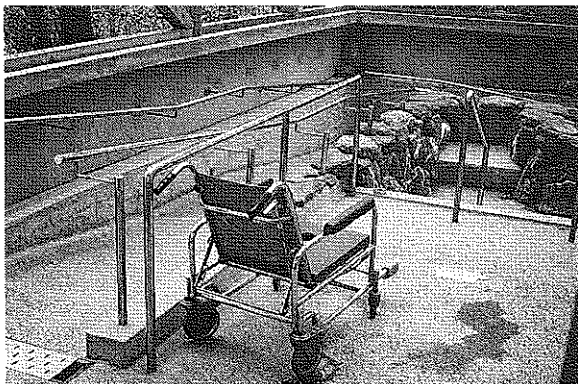


中話相手になってあげたり、肩を揉んであげたり一人ひとり、要求の異なる高齢者が喜ぶようなサービスをしていたことに関しては高齢者サービスの最先端であったのではないかと思う。

また、同時にこのような高齢者へのサービス、あるいは福祉といったものは、多様なサービスニーズを持つ高齢者一人ひとりに対応するにはいけない訳であるから、効率化といったものとは反対のものであると考えられる。

■福祉サービスには多様な人材が求められる

工場生産では真面目にテキパキ仕事をこなす人材が求められる、コンピューター技師や設計技師などは施主が満足する商品を効率よく仕上げられる人材が求められるのかも知れない。しかし、福祉サービスを考えた場合、多種多様なサービスの種類、要求する個人の性格やTPOの違いなどに対して対応しなくてはならない訳であるから、これはマニュアル化したサービスでは通用しなく、基本的には喜んでもらうためにはどうすれば良いのかということを常に考



車椅子で入れる岩風呂

える柔軟で優しい「心」をもつ、多様な人材が求められるのではないかと思う。

「愛知たいようの杜」に勤める寮母さんなどについての次のような話は、今後の高齢福祉サービスを考える意味で示唆の富んだものといえる。

「高齢者は好き嫌いもはっきりしており、また、時と場合によって要求も変わったりするので、色々なタイプの人材を置いていた方が良いのではないかと思う。いろいろな高齢者に対応できるし、何か問題が起きた時でも最後には何となく落ち着くようだ。」

■これからは多様なサービスが求められる時代

さらに、福祉サービスに限らず、これからのサービス業全般を考える意味でも、次のような吉田さんの話はヒントになるものである。

「高齢社会は主観の集まりであり、ものさしの多い社会であることを先ず認識しておくことが大切である。これからのサービス業は高齢者が多くなった場合に対応していかなければならない。

極端な例えかも知れないが、お客さんが高齢者であって、洋服店では一日かけてネクタイ一本選んだ

り、喫茶店ではコーヒーを注文して、用意をした途端に紅茶と言って変更したり、色々和我が仮なことがあるかも知れない。そこで、このような高齢者に嫌な顔をしたり、追い出したりする店はサービスが悪く、評判を落とすことになりかねない。また、このような高齢者に対してにこやかに対応できる店員は今までの効率化社会では駄目な人も知れないが、これからは極めて優秀で貴重な人材になるかも知れない。」といった主旨のことを話していただいた。

このような話を聞くにつれて、これからの高齢社会のサービスはもちろんのこと、全てのサービス産業のあり方を問われているように感じた。

「ニーズや価値観の多様化」という言葉が言われ始めて久しい。今までは「モノ」に対しての多様化は進み、生活に必要な消費財、欲しい「モノ」はお金さえ出せば大方は手に入れられるようになったのではないかと思う。

しかし、多様化の対応といった点で、目に見えないサービス、いわゆる「ココロ」のサービスは「モノ」サービスに比べてかなり遅れているのではないかと思う。それは「ココロ」サービスが高齢者福祉でも示したように対象が、移り気な人の「ココロ」そのものであるからであると考えられる。

特に、「団塊の世代」といった高学歴社会で過ごした世代があと20年経てば、もっと個性豊かで、我が仮な高齢者になる可能性を秘めているし、また、若い世代も多様なサービスを求めることになるかも知れない。今後、このような高齢者や若い世代がサービス産業消費者の主力をなす人々であると考え、多様なサービス、効率主義では測れないサービス、あるいは人材が求められるのではないかと思う。

(山田 龍雄)

やぶにらみ九州論4

ハナウタまじりで革命を!!
九州で気がついた革命の本質

■革命とはお祭りさわぎのこと

革命というについて、とんでもない誤解をしていたのではないかと、最近思いはじめています。今から考えると、ちょっと恥ずかしいような話であるが、10代・20代の頃は革命にあこがれていた。これも変なことであるが、「あこがれ」るにしては、楽しそうに考えていたわけではない。つまり、革命というものは、肩をいからし、眼を三角にして、一寸の油断もなく、必ず現れる革命の敵の殲滅しなければならないものだと思っていた。

革命とは命（運命）を（あらためる）ことだといわれている。毛沢東の「むちゃくちゃだと、大変げっこうだについて」（これは、抑圧されていた農民が、革命の中で少々手荒なことをするのに対して、細々と文句をつけるのはおかしい。それだけ動くようになったことは大変げっこうなことなのと言ったもの）などを読んでいると、中国の農民の運命が変わったことがわかり、阿Q（魯迅の作中人物）も一緒に走り回ったのかもしれない、と思わずものがあつた。しかしこれも、よく考えてみると、もうひとつピンと来ない。

運命が良い方へあらたまるということであれば、「人類の大進歩・大転換」であり、「愉快で愉快でたまらん」という気分です、「だまっけても、口元がニンマリとほころぶ」ような状況であるのではなからうか。

人が面白そうにしていると、覗いて見たくなるし、

楽しそうだと真似をしてみたいくなる。日本の農耕革命（紀元前300年頃）は、九州で始まって。「イネは走るようないきおいで東方につたわり」（司馬遼太郎）、300年後には青森県のあたりまで稲作が行われていたとされている。おそらく隣が米を貯蔵したりしているのを見ると、もどかしいぐらいに真似をしたくなつたに違いない。このようなことを、この数年、九州の各地の早く開けたところをうろつきながら感じている。

■装飾古墳は古代日本人のハナウタである

この正月7日、ひょいと、竹原古墳を見に行ってきた。福岡の中心から20kmぐらいの若宮町にある。ひょいと行って、すぐに装飾古墳の中まで見られるとは思っていなかった。場所さえわかれば、いずれ役場にでも電話して、仕事のついでに通るときに見に行ったらいい、ぐらいの気持ちだったのである。周辺をうろろした上で、やっと見つけて看板を見ようとしていると、何か大きい声でわめくような声が聞こえた。結局、こっちに来て見学の申し込みをして見学科（205円）を払えということであった。

見学科を払うと、カギとテープレコーダを渡されて、



竹原古墳の壁画をのぞき見る（福岡県若宮町）



チブサン古墳の石棺

扉をあけ、電灯を点け、ガラス越しに装飾古墳を見ることができ、テープの説明を聞いた。

2月に入ってチブサン古墳を見にいった。竹原古墳の絵はガラスが曇っていたので、それほどはっきりは見えなかったのだが、チブサン古墳は鮮明に見え、極めて斬新な色柄が描かれていた（表紙写真参照）。色といい、柄といい、そのままプリントのワンピースにでもすれば、注目を集めずにはいられないというような豊かな図柄である。

これらを見ていると、その後ろから歌声が聞こえてくるような、浮かれた楽しさが感じられる。古墳について言うべき知識を何も持ちあわせていないので、直感でいうと、竹原古墳にしても、チブサン古墳にしても、稲作が始まって何百年か経った頃で、本当に豊かな社会（気分も含めて）であったのではないかと想像した。チブサンというのは、ふたつの白い同心円が乳房を表すものと見られ、乳のよく出るようになる神様として信仰を集めていたということであるが、本当に効験あらたかであったような気がしてくる。

これを見ているとき、ふいと古事記の「天の岩戸」のところを思い出した。これは連須佐之男の命が「酔いて吐き散ら」したり、「田のあを離ち、溝を埋」めたり、馬の皮を剥いだりという乱暴狼藉をしたために、天照大神が岩戸の中にかくれてしまい世の中が暗くなる。それで戸を開けさせるために、外で楽しそうに、「神懸りして、胸乳を掛き出で」て踊り笑うので、ついつい開けてしまうという話である。ここにも、酒と稲作の踊りが出てくる。

稲作が始まって以降の、日本の超高度成長期というのは、それ以前の時期と比べるとハナウタまじりの日常であったに違いない。そしてその先頭ランナーは九州であったに違いないということが、装飾古墳を見ながら感じられるのである。

■2度目の革命は手工業技術から、そして3度目はサービス革命

次の、日本の工業革命の基礎を築いたのも九州であるが、それについてはまだ十分感じるまでになってはいない。しかし佐賀や鹿児島では、その土地の売りものは技術の史跡である。

長崎ルートと鹿児島ルートによって技術蓄積が進み、九州の諸藩が豊かになって明治維新の先走り活動もたらされたということは間違いないだろう。

考えてみると、明治維新までの100年と、その後の100年の近代200年というものは、日本は導入による近代化時代だったとってよい。また、この時代は効率的なモノづくりの時代でもあった。モノを上手につくると、自分も相手も豊か（気分も含めて）になることができた。しかし現代は違いは始めている。

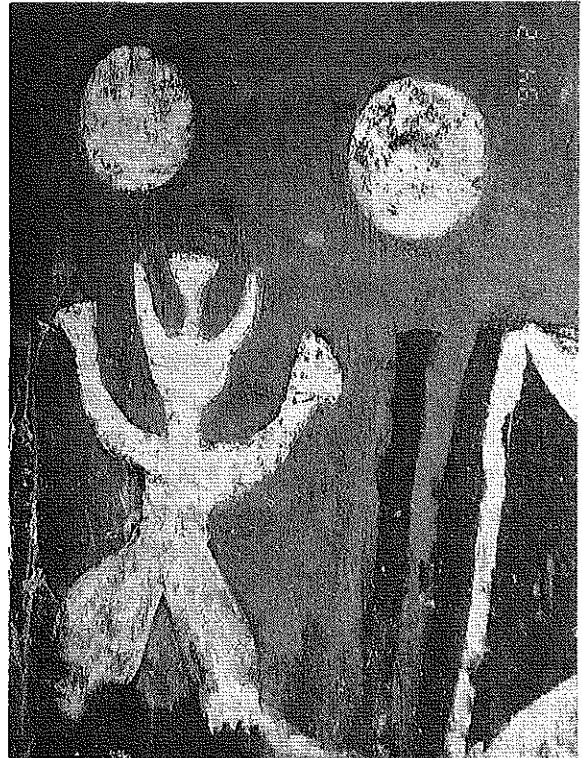
今の世の中で最もぜいたくなことは、「自分の働きで、他の人々に良い気分になっていただくこと」で

はないかと思う。

現代はサービス業（第3次産業）が60%ぐらいに達しているが、農業や工業の働きの中にもサービスの労働の要素が多くなっている（もちろん逆もあってサービス業の中にも工業的労働もある）。サービス労働というのは、人間関係を商品化するものであって、顧客が喜んで納得しないと良い品質の商品（サービス）を売ったとはいえない。例えば喫茶店でコーヒーを飲んでも、いやいやサービスを提供（サービスという商品を売る）すると、顧客はすぐに気がつくし、二度と買いたいと思わなくなる。顧客に喜んでもらうということは、売手が楽しく仕事をしているか、顧客をそのように思わせるようにだましおおせる（まち：これはありえないのであろう）かである。つまり相手に対して価格相当の満足感を売らないと成り立たない。

私どももサービス業をやっているわけだが、まことに厳しい仕事だと思っている。店に入ると「いらっしゃいませ」、出るとき「ありがとうございました」とテーブルの変な声でかけてくれるところがあるが、その声によって「ほのほのとして好い気分」になる（サービスを受けたと感じる）人がいたら、ちょっと頭がおかしいのではないかと思うだろう。これはサービス業が音声製造業になって、第3次産業の中に第2次産業が進入してきていることを示している。

第1回の革命は農耕革命であった。次は工業技術をもとにした工業革命だった。第1回目ときは人間関係とモノづくりが一体となっていたが、次の工業化の時代は、人間と機械でモノづくりが行われるようになり、生活様式も核家族化、個族化（一人暮らし）が進み、人間関係が疎となっている。サービス化社会は、人間関係が商品となる社会である一面、それ



チブサン古墳石棺東側の人物像

が一番欠落しやすい社会である。

さて、人間関係を回復させるための革命はどこで始まり、どんなハナウタとなるのであろうか。

（糸乗 貞喜）

本当にせもの

（髙京都科学開発センター
ハイタッチリサーチパーク）

これまでも何度か、関西学研都市のハイタッチリサーチパークは訪れたことがあります。今回初めて訪ねた髙京都科学の開発センターの報告をします。

会社のパンフレットによると、今から120年程前の明治8年（1875）に島津源蔵氏が今の島津製作所を興した時からこの髙京都科学の仕事は始まっているそうです。明治24年に源蔵氏が標本類の製作を始め、明治28年には標本部を設置、42年に開かれたシアトルの博覧会では、出品した人体解剖模型などが金牌を受賞したそうです。

しかし、第二次大戦中、標本部は閉鎖を余儀なくされ、戦後、昭和23年に再び標本部を復活する時に京都科学標本株式会社として再出発となったそうです。以来、45年にわたって理科教育のための標本という分野から、文化財の復元、医学教育のシミュレーターづくりまで広がり、現在は、科学展示部、教育機器部、工芸部という3つの部門において「新しい科学と文化の世界」の探求が行われています。

今回訪ねた開発センターは、平成2年に京都の異業種企業13社が協同で立地した時のものであり、モデル媒体を通じた科学と文化の伝達を目的として設置されたものです。研究室、企画室、研究資料室の3つの部屋があり、このうち研究資料室では、会社の製作作品の展示が一般にも公開されています。

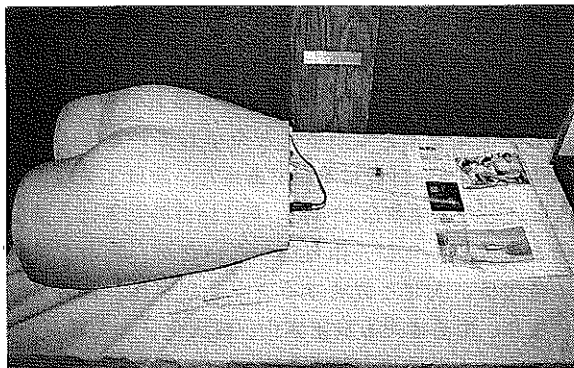
資料室に入ると、どこかで見たような仏像、土器、銅境、銅鐸など、博物館や歴史資料館に展示されて

いるものが並んでいます。目を近づけてよく見ても本物にしか見えません。「触っていいですよ」との一言、どうも見た目と手触りが違う、叩いてみると「コーン」などと軽やかというか薄っぺらというか、樹脂でできているそうです。

模型の製作のため、最初は樹脂を本物に貼り、この樹脂を剥いで、型枠を造り、その中にさらに樹脂を流し込んでつくるというオーソドックスな工程だそうです。しかし、できあがったものをみると、…まさに本当にせものとしか言えない。いま流行のバーチャルリアリティそのものです。

写真は、だれが見ても人間のお尻です。触ってみると、少しヒンヤリとしていますが、手触りは人間の感触とそっくりです。これは一体何に使うかというと、看護学校の生徒さんの研修用で、注射を打つ練習に使うそうです。乳ガンの検診用の作品もあり、同行した見学者は一人ずつ順番にその感触にしきりと関心（ニヤリ？）していました。

この他にも、実際の消火器を使うモニター上の火災消火の練習システムなどもあります。



触りたくなるようなお尻

聞くところによると、全国にある博物館や科学館の展示物に関わっているということで、まさに標本の本山という感じです。

ひょっとすると、我々が行く博物館、資料館に置いてある文化財は、全て本当のにせものかも？と思いつつながらセンターを後にしました。

(山辺 真一)

テーマパークらしくないテーマパーク

大津市・叶匠寿庵「寿長生の里」

去年の12月に関西に行った折、滋賀県大津市にある叶匠寿庵(かのうしょうじゅあん)「寿長生(すない)の里」に行きつて来ました。叶匠寿庵は、和菓子のメーカーとしては、従業員一人当たりの売上高が群を抜いてトップであるといわれています。寿長生の里はお菓子工場と併設した山荘のような所です。去るときに「いい時間」を過ごせた気分になる不思議な空間でした。

■心づくしのおもてなしを予感

源氏物語の宇治十帖の中で、光源氏の息子・薫の君が、大君に会うため、野を越え山を越えしてはるばる都から宇治の里を訪れる場面が出てきます。

バスが京都を離れ東の方角を目指し、山を越え溪谷沿いの道を進み、辺りがどんどん寂しくなっていく中、私は、物語の中の薫の君が受ける宇治でのおもてなしの光景を頭に想い浮かべていました。人里離れて山に囲まれた叶匠寿庵「寿長生の里」のロケーションは、自分が受ける心づくしのおもてなしを既に予感させていました。

■人数制限で高品質のサービス～寿長生の里



冬の朝の冷えた身体にしみるいろりの暖

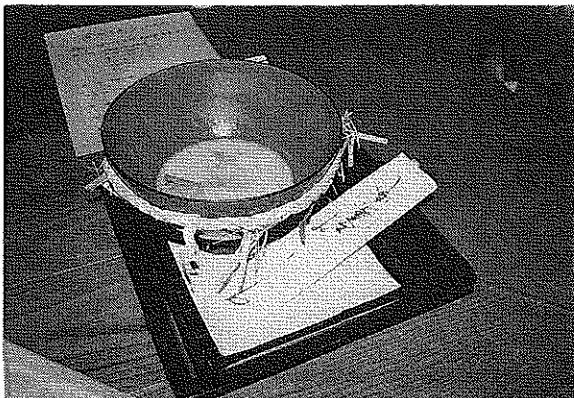
福岡を発つ前に、来るようお願いされていた時間(変な言い方ですが)は朝10時。我々は、まず猟師小屋ふうの山小屋に通され、囲炉にあたりながら梅ジュースを戴き、法被を着せられます。そのスタイルでぞろぞろ歩いて本館の方へ通されます。

本館では、最初にお茶を戴いたのですが、美人のお茶の先生のもてなしを受けながら、叶匠寿庵のお菓子を前に、優雅にお茶を戴くのは日頃味わえない安息感でした。そして、せかさないうちで、お食事の用意が出来ました、と食堂に通されます。

よどみのない、かといって、客を追い立てない一連の接客の流れは、客同士ががちあって雰囲気損なうことを極力避けるために、入場客の来場時間を設定し入場客数を絞っているからできること。システム化されたサービスが成功しています。お菓子の販売でも、叶匠寿庵は販売チャンネルを大手のデパートの一部に絞り、やはり質の高いサービスで売上げを伸ばしているようです。

■実はテーマパークだった

心づくしの美味しい食事を終えた後で、寿長生の



食事は器をナワで締めたお雑煮からはじまる

里の広報担当の方の話しを伺ってみました。そして、ここがテーマパークであるということをお聞きしました。お客様を満足させるために高品質のサービスを徹底させ、厳しい接客マナー等の社内教育に力を入れているとのこと。全国のテーマパークの7割が集まる九州では、大規模投資のツケで各地のジリ貧がささやかれますが、ここでは、逆に、入場客数を絞り、質の高いサービスを提供することで、クチコミの客を中心に毎年入場客が増えているとのこと。

■いい暇つぶしである

わずか2時間余りの滞在でしたが、寿長生の里で過ごした時間は長く感じました。広大な庭を散策する時間があるので、ゆったりと時間を過ごせます。お茶・お食事込みの金額は5,000円足らずと予想以上に安く、いい暇つぶしになったと思いました。

(尾崎 正利)

多様な種類が揃っている高齢者福祉施設

名古屋、岐阜周辺の施設視察報告

主な高齢者福祉施設は下記に示すように多様なメニューが揃っており、高齢者の経済状況、家族の介護能力等に応じて選択ができるようになっている。

今回、全国でも注目されている2つの高齢者福祉施設についての報告を行うものである。

高齢者福祉施設や住宅の主な種類と施設内容

・特別養護老人ホーム

身体上又は精神上の著しい障害のため、日常生活上常に他人の介助を必要とするなど、いわゆる「ねたきり老人」で居宅において適切な介助が困難な65歳以上の老人を入居させ、養護する施設。

・養護老人ホーム

65歳以上の者であって、身体上若しくは精神上又は環境上の理由及び経済的な理由により居宅において養護を受けることが困難な者を入所させ、養護する施設。

・軽費老人ホーム

低所得階層に属する老人であって、家庭環境住宅事情等の理由により居宅において生活することが困難な者が低額な料金で利用できる住宅

・老人保健施設

入院して治療するまでもない、病状が安定した、寝たきりや痴呆性の老人の方に医療ケアを含めた介護、看護、リハビリテーションを進め自立した生活を援助する施設。

・ケアハウス

家族との同居、または居宅での生活が困難な方を対象に、食事や入浴などのサービスを行い、自立と自主性を尊重する高齢者向けの住宅。

・自由契約特別養護老人ホーム

既存の特別養護老人ホームに併設し、既存の共用施設を兼用する施設であるが、介護措置費が出ないもの。

■小山田：医療と福祉の里

当施設群は東名阪高速道四日市I・Cより約12分程南側に走ると田園地帯の中に見えてくる。

当医療と福祉の里では、昭和49年に小山田特別養護老人ホームの設立を契機として、徐々に地域のニーズに応じて他の施設を建設し、今日に至っているものである。

この里には総合病院を中心として一連の高齢者福祉施設が揃っており、病院入院者が特老へ、老人保健施設入所者が特老へとといったように施設内の移動が当施設群内で行われているとのことであった。

また、ここでは地域開放の一環としてコンサートや会議、展示会、発表会などの活用ができる多目的ホールや会員制の温泉設備を備えた「温泉地域交流センター」をはじめ、露天風呂、ふれあい動物園、馬小屋、日本庭園など入所している高齢者や地域の人々が利用、交流できる仕掛けづくりがしてある。さらにショートステイやホームケアなどの入所サービス、デイ・サービスセンター、施設入浴サービス、ナイトケア（夜間のみ痴呆性の老人を預かる）などの通所



案内板以外に、ケアハウス、四日市福祉学院、呆け老人介護相談所、露天風呂、ふれあい動物園、馬小屋などがあります。



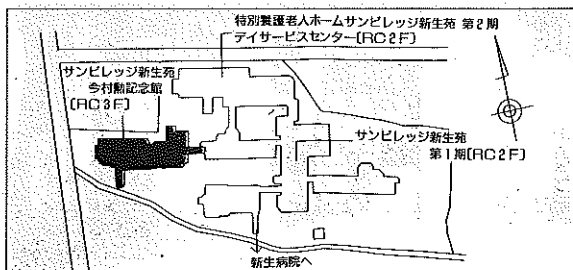
施設内に仏壇があり、車椅子で近づけるように、じゅうたんが敷かれている。

サービスあるいは給食サービス、訪問入浴サービスなどの訪問サービスといった在宅支援サービスが充実している。

■サンビレッジ新生苑：自由契約型特別養護老人ホーム

岐阜市から約15程西側に位置する池田町の中心部に位置する当施設は既存の特老に併設された形で建てられており、既存の特老が入所者の収入に応じて措置費があるのに対して当施設では措置費がなく、個室では38万円、2~4人部屋（トイレ、キッチンが共用であるが、各部屋が間仕切りされており、個室に近い。）が36万円の入所料を払うと介護、食事など全てのサービスが受けられるシステムとなっている。これはいままでの特別養護老人ホームと有料老人ホームとの中間に位置する施設として厚生省のモデル事業として建てられており、別棟で建てられているものとしては全国でも唯一のものであるとのことだった。

現在、特老は不足しており、急速に高齢化に対応した特老を増やすことは財政的にも難しいということから民活型の施設として厚生省が考えだしたもの



既存の特老と併設され、2階でつながっている。

だが、当施設の理事長である石原さんは将来このような施設が必要であるとの信念のもと設立されたものである。

石原さんに施設内部を案内していただいたが、食堂にはいつでも暖かい食事が食べられるオープンコーナー、広々とした各居室、南側に面した明るい玄關と喫茶コーナーなど細々したことに関しても石原さんの長年の夢が込められているようでした。

当施設は措置費がないため、確かに入所者にとっては高いようであるが、運営する側にたつとこれだけのサービスを提供する割には極めて安価な施設であろうと考えられる。しかし、入所者は厚生年金や子供たちの分担しているなど、それ程負担をかけない方法で入所していることのようにであった。

さらにこのような施設を全国進めていくためには医療保険とのセットなど入所者の負担を軽くしていくようなシステムが今後の課題でないだろうかと思う。

(山田 龍雄)

親孝行の正助さんの里であなたも土を耕しませんか。

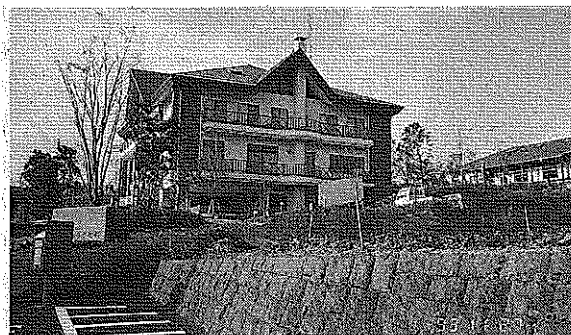
宗像市・正助ふるさと村

江戸時代より宗像市に伝わる親孝行者の正助さんの生地に、昭和63年、県営圃場整備事業および集落の環境整備事業にからませた小規模の農村公園整備を計画、市の観光事業の一環として平成元年から着手し、平成4年4月にオープン。平成5年3月までに64,615人の来村があり、予想外の繁盛振りに関係者はうれしい悲鳴を上げているとのこと。

宿泊もできるこの村では、村のある宗像市武丸地区の主婦の方達の手作り郷土料理で歓迎され、宿泊客にはなかなかの評判だそうだ。

また、熊本県久木野村で開かれているそば道場に住み込んでまで修行してきたそばは1日100食程度の限定品だけあって、人気も上々。郷土料理は予約すれば、お昼に食することが出来るそうなので、機会があれば是非ご賞味あれ。

メインのふれあい農園では、1区画15㎡の貸農園



「二人以上の者が一緒に仕事をする」という意味を持つ「もやいの家」

で四季折々の野菜達を、専門のインストラクターの指導で生産する事も夢ではない。

その他、体験農園では季節行事を行っているので参加すると、もぎたての野菜・果物を食することが出来る。お天気の良い日曜日に仕事を忘れ、子供達と自然に触れられる最高の機会ではないだろうか。担当の市の職員の方の生々とした笑顔が村の未来を見せてくれているようで私には一番印象的だった。

(神野 みつえ)

県・市共同の一体的な団地づくり

静岡団地視察報告

現在、係わっている佐賀県のK市の公営住宅基本設計をまとめるにあたって、県・市が共同で開発した佐世保市静岡団地を視察し、その開発のいきさつや団地の特徴などについて報告をします。

■静岡団地の概要

当団地は県・市共同の公営住宅であり、敷地規模約2.3ha、1種60戸、2種164戸の3～4階の中層住宅10棟と高層14階建て2棟の住宅群が、佐世保市南部の早岐瀬戸に面する風光明媚な立地条件に、周囲の田園風景になじみつつ、この地域のより良い景観を創り出しています。

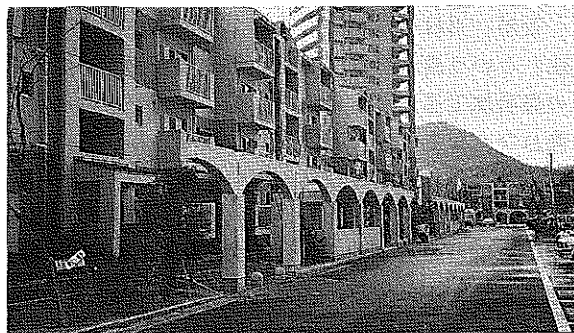
佐世保市東南部は、ハウステンボス・厚生年金施設「サンピア佐世保」・テクノパーク開発等がなされており、今後さらに文化レクリエーションゾーンとして注目を浴びる地域であり、住宅需要も今後さらに高まることが予測されています。当団地建設に当たっては地域密着型の公営住宅としてより良い居住環境と共にうるおい、ゆとり、文化性を追求して計画は進められています。

■県・市の骨格となる共用部の工事に協定を結ぶ

団地の周辺は山や瀬戸等の自然に囲まれ、田園風景が広がっています。その中でこの敷地は数少ない大きな面積の平坦地であり、長崎方面から佐世保市への入口に位置します。瀬戸越しの遠景、JR大村線や国道205号線を走る車窓からの眺望を意識し、水辺にふさわしいデザインとスカイライン構成をめざし、若年層の需要に配慮した住宅となるよう心がけられています。

さて今回の視察の大きな目的は、当団地がひとつの敷地に県・市が統一感を持った住宅建設を行い、共同施設も含めて県・市共同で建設から管理運営まで行われた所にあります。

建設は複数年度にまたがる工事となるため、給排水等における団地全体の骨格となる道路や排水管などの工事(公営法で「特定工事」という。)は、県・市各々が戸数按分により同一業者と契約を締結するという「特定施設建設に関する協定書」を交わしています。また、管理運営に関しては、特定工事部分は建設と同様「特定施設の管理運営に関する協定書」を交わし戸数按分による費用負担を行うことになっています。



静岡団地の概観

特定施設の計画申請では数量が複雑となり、これから県と事業をすすめる際は用地を全く切り離して特定施設だけは県・市独自の申請により建設した方が良いのではとのことでした。

土木からの視点では、排水側溝を極力減らし地面に浸透するように計画されており、中庭等はやわらかい仕上がりになっています。また団地内幹線道路で建物前には幅員の半分を緊急車や宅急便等の駐車スペースとしてカラー舗装で明示してあるのも興味深かったが、現状は一般車の駐車が目につきました。

市では昨年各地からの視察団が訪れ、資料の準備・現地案内等、対応に追われているようですが、中には遠方から来られ、視察・ヒヤリングもそこそこハウステンボスへ行ってしまう視察団もおられるとか…。

(竹田 伸一)

ミカン減反からの出発

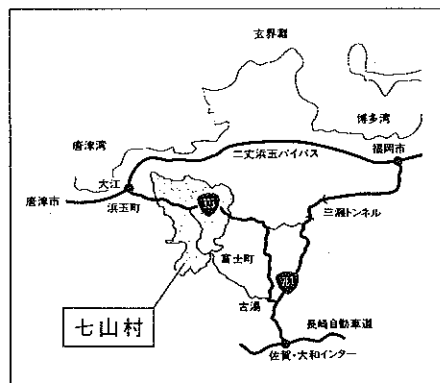
佐賀県七山村農産物直売所

福岡県・二丈町に接し、佐賀県・唐津市に近接している七山村は人口約3,100人の山村であり、総戸数640戸の内約7割が農家である。

近年、当村の役場近くに建てられている「鳴神ノ庄」という農産物直売所は、新鮮な野菜や手づくりの農産加工品を豊富に品揃えし、午前中には品物が概ねなくなるという盛況ぶりをみせ、福岡市内をはじめ多くのお客を呼び込んでいる。

私がヒヤリングを行った直前にも福岡県のある町からの視察があったとのことで、同様の施設づくりを考えている自治体の注目を集めている。

最近このような直売施設を構想あるいは建設している自治体が多く見受けられる。そこで、前々から



七山村の位置

当施設に興味があった私は七山村が成功している理由、設立の経緯、現在の運営状況などについて話をお聞きしたところ、現在に至るまでに地域の農業生産にかかると必然的な物語があったことに改めて感心した次第である。

■きっかけはミカン減反

当村は昭和50年当初まで、ミカン栽培などによって一世帯当たりの農業所得が県下で2番目であったが、昭和58年以降のミカン減反に伴い、いち早く季節野菜などの施設園芸に取り組み始めたとのことである。しかし、野菜づくりに切り替えたものの、生産者が野菜づくりに不慣れであったことから農協が引き受けない規格外の品が出てきたため、ドライブ客相手に国道323号沿いで直売し始めたのが当施設づくりのまさにきっかけとなったものである。

その後、昭和58年の村内産業祭開催の時に、300点の家庭産品を出品し、これを契機に当初無人販売所(42.0㎡)を県の事業で建設し、運営を始めたとのことだった。年々売上げも増えたが、無人であるため産品出荷者と売上の食い違いなどのトラブルも発生したということもあり、昭和61年12月に新農業

構造改善事業で約233㎡増築し、さらに販売する人を置き、現在に至っている。

現在は女性の常勤パート7名、男性の常勤者2名で運営に当たられている。

■豊富な品揃えと立地条件が成功の秘訣か

ヒアリングを受けていただいた産業課の担当の方に「私も趣味を兼ねて、色々このような直売所を訪れているが、その品数の多さと安さに驚かされました」ということを話したところ、「そうですね。品物が豊富でないと人は続けて集まりません。品数が少なくなってくるとお客さんもじり貧でしょう。この豊富な品数を揃えるのが大変なんです。だから他のところが成功するとは言えません。また、立地条件が、丁度大都市から1時間半と手ごろなのがいいのでしょう。あまり都市に近いと近辺の商店と競合してしまいますからね。」というようなことを話された。

この豊富な品揃えを支えているのが、農協、商工会、役場で組織している協議会であり、さらに農協の下部組織としての各生産部会である。直売所の責任者は安定した品揃えを行うため、一般の出荷者が揃えきれない分を農協と調整し、生産部会から出荷してもらうようなシステムを日常的に行っているということであった。

現在、出荷登録者は約350人で1日平均の出荷者が200人ということですが、出荷者は村内に居住する子供からお年寄りまで広範囲にあたっており、夏休みみみはかぶと虫などで小遣い稼ぎをしている子供もいるとのことであった。

■農業全体に占める役割はどの程度か

現在、当村は野菜などの園芸栽培を中心に、農業者一世帯当たりの収入は県下で5番目まで盛り返したとのことで、約12億の生産高を上げている。



七山村農産物直売所「鳴神ノ庄」

当直売所では、年々売上を伸ばし、平成4年度実績で約2億ということである。この2億の中には農業者でない人も含まれているため一概に比較できないが、少なく見積もっても10分の1程度の比率は占めているのではないかと考えられる。

次に一人当たりの平均売上げをみると、1日の平均出荷者が200人であることから一人平均約100万円となる。頑張っている高齢夫婦で年間約300万円の現金収入があるというケースもみられ、出荷者の工夫と頑張り次第では大きな収入源になることがわかる。

■これからは競合の時代か

役場担当者の話しでは、売上高も品揃えと顧客増加の見通しなどからみて今が限度ではないかと言われた。

確かに前原市や二丈町などの各自治体が同じような施設を創り始めており、競合してくることは事実であり、今後消費者も選択の幅が広がることになるであろう。

そこで、今後はやはり安さより（100円が150円になってもあまり関係ないのではないか。）如何に新

鮮で安全な品物であるかの信頼関係を創り出すことが勝負ではないかと思う。

七山村の今後のより一層の展開を注目するとともに、私も消費者の一人としてまた何度も当地を訪れたいと思っている。(山田 龍雄)

食 場 日 誌

- ・ 1月10日(月) 商都博多への思い入れのつもりで恵比須さんに詣でる。別の思い入れ、参道の屋台に入って御神酒を上げたが、これはひどかった。やむなく最近知った“屋台パー〇〇ちゃん”へ。これはカクテル専門屋台で、酒の味よし、食べものよし、雰囲気よしの三拍子揃っている。場所は?、それはたとえミニコミ誌とはいえずくことは……。 「努力の頭に神やどる」。
- ・ 1月17日(月) 鹿児島で焼酎天国へ。すっかりなじみ扱いしていただいて、うまいイモ焼酎をいただく。
- ・ 1月18日(火) 早朝鹿児島駅近くの桜島栈橋のあたりの朝市で仕入れ、ここでの目当ては寒干し大根。なんともいえず大根の辛さと甘味がする。これを知ったいわれを述べると長くなるので略。ついでにカツオ節の味噌付けなどを仕入れる。
- ・ 1月26日(水) 東京渋谷の台湾料理の店で、ニンニクいっぱいシジミの酒蒸し。
- ・ 1月27日(木) 愛知県犬山市「お菓子の城」でスイートポテト(土産)を買う。
- ・ 2月4日(金) 久しぶりに浜松町の“新亜飯店”でショウロンボウを食べる。

お知らせ

第27回地域ゼミ開催のお知らせ 「都市高齢者と余暇活動を考える」

—都心繁華街・天神における
高齢者の散策的活動を通して—

- [日 時] 3月10日(木) 18:30~20:00
- [場 所] ㈱九州地域計画研究所7階会議室
- [参加費] 1,000円
- [講 師] 九州産業大学工学部建築学科
上和田 茂 教授

まちづくりの情報交流、人と人の交流の場として第26回まで続けてきました「地域ゼミ」を1年半のブランクを経て、下記の要領で再開させていただきます。参加ご希望の方はFAXまたはTELにてご連絡ください。なお、会場の都合上30人までとさせていただきますのでお早めに申し込んで下さい。

連絡先：TEL.092-731-7671 FAX.092-731-7673
富重、歌丸

ええかげん物語

断食は自分の身体と心の交流体験

■断食体験

暮れから1月1日までの13日間、高尾病院へ入って断食をした。はじめの5日間は漸減食(1200カロリーから300カロリーまで落とす)、次の3日間が断食で、澄まし汁と糖分不足の用心のための黒砂糖30グラムが昼と夜の2回出る。3日間が過ぎると回復食(はじめの5日間の逆)というプロセスである。

結論をいうと、断食というのは、身体に異常を体験させる中での心と身体の話であると思った。「お

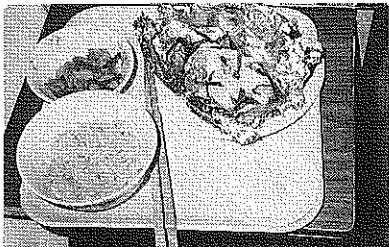
いおまえさん、ハラがへってまいったか」、「うん少しはしんどいが、別に病気やないんだから、タコみたいに自分の身体喰ってるし、少しは体重もへるやろし……」、「どうだ正味の断食3日間の気分は」、「なんのなんの、今日も3時間山歩きしてきたよ……」といった調子で断食が続く。

この13日間で得たものは、「断食ってこんなことか」という気分を感じたことである。それ以降、「ちょっと屁が出すぎるな」と思えば、「一応2回食事ぬくか」といった感じで簡単に調整に取り組むようになったことである。

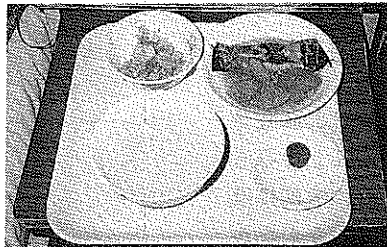
あと二つ、良かったことを述べる。一つは、入院した高尾病院が実に「ええかげん」で「素人ばい」病院だったことである。

私の感じでは、医者というものは、一般に、いかにもプロらしく、「わかっとる、わかっとる、すぐなおるよ」といった対応をするが、患者の当方も「自分の身体はオレが一番知ってるぞ!!」と言いたい気分がある。ところが、高尾病院はドクターもナースも実によく患者に尋ねるし、検査データのコピーを渡して丁寧に説明もする。感心したのは、思い込みで対応せずに十分検査もした上で方針を決めていくということである。

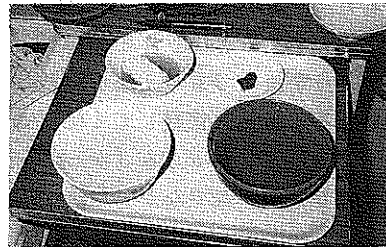
この病院は案内パンフレットに「漢法、針灸、絶食の(財)高尾病院」と書かれており、病院の玄関に入ると、煎じ薬の臭いがしている。私はアトピー性皮膚炎の心配のために断食をすることにしたのだが(入ってみて私ぐらいではものの数に入れてもら



2日目：1200カロリー／日の夕食。豆腐の包み蒸し、野菜煮物、玄米御飯



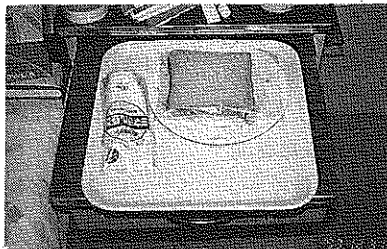
4日目：700カロリー／日の夕食。かれいと大根などの煮物、あえもの、七分粥、梅干



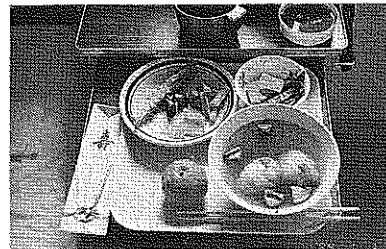
5日目：330カロリー／日の夕食。三分粥、豆腐少し、梅干半分、すまし汁



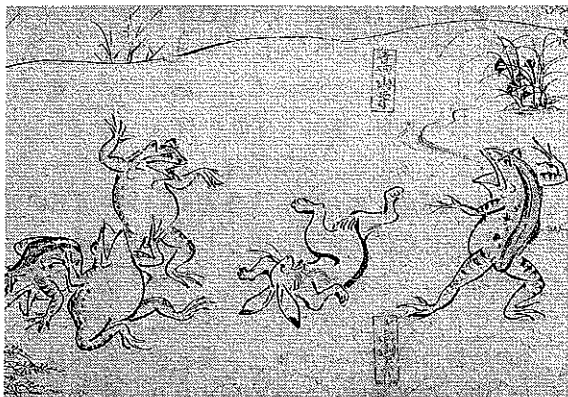
6～8日目：すまし汁2杯と黒砂糖30グラムが昼と夜に出る。9日目からは回復食



12日目：1200カロリー／日の朝食。玄米パンと豆乳



13日目：退院の日の昼食。玄米餅の雑煮、エビ・ゴボウ・数の子、がめ煮、みかん



断食中に散歩した梅尾高山寺の国宝鳥獣人物戯画

えないぐらいで、極めてひどい皮膚になっている若者男女が多かった)、3日間の断食に入る直前まで(血液検査などの確認をするまでは)、本当に断食をするかどうか決めてもらえなかった。当方としては到るところで断食を宣言して入院しているのに、断食させてもらえなかったら「かっこうがつかん」という思いで、気が気でなかった。つまり、この病院は漢法と西洋医学をうまくドッキングさせて、なかなか「ええかげん」に運営しているところである。

もう一つの良いことは、変なアクティビティーをやっていること。それは、断食講演、針灸講演、西式体操、アトピー問題、音楽体操、アレルギーとは、などなど。つまり患者は、「何をやられているかわからん」という不安がない。

付録としてもう一つ。この間にウロウロした寺院や山などをあげておく。これらは直接歩いて行くか、少しバスに乗って入り口まで行ってから歩いたか、普段より運動ができたと思っている。

- ・12月22日：石岡八幡まで、午後は広沢の池まで歩く
- ・23日：後宇多帝陵～広沢池～大沢池～大覚寺
- ・24日：仁和寺
- ・25日(断食)：高尾神護寺～西明寺～梅尾高山寺
- ・26日(断食)：白砂山方面
- ・27・28日：ノルマの原稿完了。さすがに少し体力減。体操のみで外出せず。
- ・29日：三宝寺
- ・30日：槇ノ尾～沢の池。これは遠出、この日久しぶりに玄米のご飯が出た(1200カロリー/日)。
- ・1月1日：早朝6時半石岡八幡宮へ初詣したら「御神酒をどうぞ」といわれ、いただいた。

(糸乗 貞喜)

『「非まじめ」のすすめ』

森 政弘 著 (講談社)



今日の行きつまりの原因は不まじめにあるというよりも、むしろ逆に、低次元のまじめさによってもたらされているのではないか……。

(まえがきより)

まじめでなければ不まじめなのか、まじめであれはそれで良いのか……。『まじめ』もよし『不まじめ』

もし、双方が融合しまじめであるか否かを超える、それが「非まじめ」の考え方だ。

かたい話をしても仕方ないので、本文の面白かった部分を引き合いに出そう。

大学教授でもある著者が、工業大学の学生に「揺れる電線に鳥が落ちないで止まっていられるのはなぜ」という問題を出したところ、ほとんどの学生はまじめに物理的観点で答を出した。「重心が電線の上に乗っているのはぶら下がるのと逆で難しい。前のめりになれば重心を動かして後ろに持っていく、重心が後ろに行きすぎたときはまた前に持っていく。それをやっているから落ちない」。しかしこれでは面白くない。いい答えにはこういうものがあつた。「鳥は、落ちて飛べばいいと思っているからだ」。

もし人間なら「落ちたら死ぬ」と思うのでとてもできないだろう。つまりこの答えは、余裕が成功を生む、という人生訓にもなっているのだ。

今日では高精度の機械がよい機械だといわれているが、低精度の方がよい場合もある。例えば馬車をつくった場合、まじめにやって車軸をきっちりとしたものにするとうちはすぐにへたばってしまう。路上に石ころがあるとまともに乗り上げ、そのたびに馬車の重量を持ち上げる事になるからだ。ところがシャフトがガタガタの従来のような馬車であれば、石ころがあっても車輪は乗り上げないで横に避けて通る。よって馬はあまり疲労しないですむのだ。(うちの会社の一先輩の方がよく言う「ええかげんにやれ」の意味はこれに近い気がする)

この本の初版はもう10年以上前であり、当時から比べると「非まじめ」のような考え方は、かなり浸透しているのではないかと思える。それを「非まじめ」と呼ぶかどうかは別として。

頭の軟らかさを必要とする人(必要としない人なんて本当はいるのか?)にとって、いいヒントが詰まっている。これはひとつの発想法でもあるが、それだけではなく、ものの見方そのものでもある。

(伊藤 聡)

「想いは宇宙のかなたから」
やさしい科学と技術のはなし

LaSA事務局 編(西日本新聞社)

LaSA (Ladies Science Akademia) というのは、「考えてみましょう暮らしの中の科学と技術」をテーマに、さまざまな科学者、研究者を講師に招いたり、研究機関をたずね、わかりやすく科学や技術のことを理解していこうという女性を対象にした催しのことです。



この本は、この活動4周年を記念してつくられたものです。

各章に惑星の名がついていて、「宇宙船LaSA号に乗りこんで惑星をめぐるながら、地球に想いをはせる趣向」(まえがきより)となっており、前半が「物質」、後半が「エネルギー」についてまとめてあります。

内容は、写真や図説が多く、私のような「科学オンチ」にも目でみてわかるようにやさしく書かれています。

なお、この「想いは宇宙のかなたから」は、本の監修をなさっており、九州北部学術研究都市構想でお世話になっている九州大学森永健次教授よりご紹介いただきました。

—「想いは宇宙のかなたから」もくじから—

水星	謎のマフィアを追い	(オゾンホール)
金星	ミクロからの贈物	(微生物)
地球	カメラ族に喝采を	(有機化合物)
水星	モダン錬金術の偉大	(無機化合物)
土星	ランデブーで美德を	(化石燃料)
天王星	放浪のアトムが走る	(ウラン)
海王星	天地創造はエンドレス	(太陽、大気、水)
冥王星	プロポーズは指輪で	(燃料電池)
太陽	憧れのサマータイム	(天体エネルギー)

(歌丸 星子)

編集後記

最近、事務所で「これはよかネットに使えるね。」という会話がどこともなしに出てくるようになってきました。第8号となり、日頃から所員一人ひとり「よかネット」のネタ探しへの意識が少し芽生えてきているようです。

また、今回から「職場＝食場」ということで、ちょっと立ち寄った店やおみやげで買ったものなどで少しレベルの高い(安くて美味しい、見かけは悪いが美味しいetc)ものを所員それぞれが日誌として書きとどめるようにしたのを掲載させていただくようにしました。これは、全く当方のみのお楽しみと調査・研究の一環ではありますが、ご了承下さい。(だ)

お知らせ

第2回“よかネットパーティ”の予定

[場所] ㈱九州地域計画研究所7階

[日時] 6月3日(金) 17:00～

[目玉] 博多にわか(予定)

うまいもの(去年は70余品目)

飲みもの(去年は約20種)

[参加資格] 次のうち何かを持ってきていただきます。

- ・うまいもの話(早目に当方に御連絡ください。取り寄せますので。)
- ・面白い話、楽しい話(つまりモノよりココロを)
- ・うまいもの、うまい飲みもの
- ・罰金 500円

[おねがい] 去年多くの方々の御協力で、たくさんのお品物が集まり大好評でした。今年も御協力をお願いします。

よかネット NO.8 1994.3

(編集・発行)

㈱九州地域計画研究所

〒810 福岡市中央区天神1-15-1 日之出ビル6F

TEL 092-731-7671 FAX 092-731-7673

(ネットワーク会社)

㈱地域計画建築研究所

本社 京都事務所

TEL 075-221-5132

大阪事務所

TEL 06-942-5732

名古屋事務所

TEL 052-962-1224

東京事務所

TEL 03-3226-9130